

令和5年10月1日

10月ちびっこの森通信 vol.215

☆☆今月のテーマ☆☆

- ・秋の紅葉といった自然の移り変わりに興味や関心を持つ
- ・戸外へ出て体を動かして大いに遊ぶ！

～今月の園内学習～

- ・足し算…1の段
- ・掛け算…1の段
- ・数字カード…1～20の数字
- ・食べ物カード…10月の旬な食べ物
- ・漢字カード…小学校1学年で習う漢字30文字
- ・歴史カード…志賀 潔ほか
- ・ひらがなカード…「わ行」
- ・国旗カード…チェコほかヨーロッパの国々
- ・地理カード…北海道ほかの東北地方
- ・声に出して読みたい日本語…十二支ほか

～保育のポイント～

「のびのび教育」の大きな間違いについて

～「右脳」子育て 七田 眞著～

こどもを比較し、他を蹴落とすことを是とする戦後の日本教育の反動からなのか、今は「学校に入るまでは教えてはいけない」や「早くから知的なことを教えると性格が歪み、自己中心的な子に育つ」といった見方が根強いようです。では、頭のいい子は誰もが性格が悪く、自己中心的呢でしょうか。逆はどうでしょうか。そうでないことは現実の世界を見れば、一目瞭然です。とは言え、教育は時期がくるのを待つてするものという考えがあり、その時期になればこどもは自然に物事に興味を持って覚えるようになる、という考え方があるのも事実です。その反証として、21年度の文科省が小1や小2の不登校は前年比35%増えたという調査報告があるように、(未就学児期に)ただ遊ばせるだけで就学期に臨むと教育環境への不適応から学校に馴染めないという悲しいスタートを切らざるを得ない場面に遭遇しないとも限りません。ですから、「時期がくるのを待つ」というのは避けたい考え方と言えますので未就学期に取り組むべきは知的な能力の発達と同時に「心」の育みも取り入れ、車の両輪のように取り組む必要があります。最近、「キレル子」という言葉を耳にしますが、その特徴は(1)気の向くまま好き放題で感情抑制が出来ない、(2)自分の行動を反省し責任を取ろうとしない、(3)行動を抑制されると怒り、抑制する人を憎む、や(4)弱い人にストレスのはけ口を求め、となっています。これらを未就学児期にバランスよく取り組むことで、のびのびと過ごしていける就学期のスタートに繋げることが可能だと思いますのでご紹介した次第です。

～行事予定～

- ・リズムク…2日 [年中・年長] / 16日 [年少]
- ・書道教室…5日・19日 [年長]
- ・えいご…11日
- ・身体測定…17日
- ・体操教室…20日 [年少] / 23日 [年中・年長]
- ・クッキング…24日 [年長]
- ・食育講座…25日 [年長]
- ・10月お誕生日会…26日
- ・避難訓練…27日
- ・音楽教室 (ピアノ & ホルン)…30日
- ・ハロウィン会…31日

さくら組だより

先月は名ばかりの「収穫の秋」でむしろ「残暑バテの秋」と言ってもいい程の暑さ続きで外遊びもままならない状況でした。一方、先月の朝の唄が「きのこ」でみんなの頭には「き、き、きのこ」の歌詞がリフレインとしてインプットされて楽しそうだったので室内製作で折り紙をしてみました。手先が器用になってきたとは言え、折る手順や見通しが持てない折り紙は簡単ではなかったようで「角と角を合わせる」や「折り目をしっかりとつけるためのアイロンがけ」などの注意を聞きながら頑張っていました。中でも、きのこの傘の部分は苦戦が見られましたが、手本に釘付けになって完成させる当りは流石でした。暑い中でも身体を外遊びに慣れさせようと時間調整しながらの外遊びをしました。公園では草むらの虫探しに、雑草を野菜に見立てたおままごと遊びで盛り上がっていました。みんなはブランコなどの遊具はひとり占めではなく、順番に遊べるように「十数えたら交代ね!」と分かりやすい約束ごとをして楽しんでいました。これから季節がよくなってくるところから、さらに外遊びを健康管理をしながら楽しんでいきたいと思ひます。

ひまわり組だより

夏場の水遊びから秋の外遊びへと一気にシフトチェンジできれば良かったのですが、さすがに記録的な残暑には勝てませんのでまずは短時間の徐行運転の外遊びとなりました。公園では砂場で砂いじりに、暑さにも負けじとばかりにボール遊びでダイナミックに身体を動かし、元気なところを見せていました。また、公園にあるザクロの花を見て、すぐに「タコさんウイナー」と連想しバケツにかき集めていました。先月は「敬老の日」が控えていたことからみんなはおじいちゃんやおばあちゃんに感謝の気持ちを込めた似顔絵がワンポイントとなる小物入れづくりをしました。めいめいが「髪の色はねえ〜」や「眼鏡、かけとるよ」などおじいちゃんやおばあちゃんの特徴をとらえた顔を描き、メッセージの「ありがとう」はなぞり書きの要領で一人ひとりが表現していました。今月からはようやく本来の外遊びが本格的に出来そうですので感染症や熱中症対策をして元気に遊び回りたいと思ひます。

ゆり組だより

今夏の止まることのない残暑は何処まで続くのか、と疑問を呈したくなるもののはっきりした答えが見出せないまま先月が過ぎ去ることになりました。ですから、外遊びはしたいけど、暑いから…ということで時間調整しながらの外遊びとなりました。就学期に向けた活動の一つとして新学期から取り組んできた鍵盤ハーモニカがあります。当初は「難しい」の一点張りだったのが音階シートで「ドレミ」のそれぞれが識別できるようになり、ホースから息を吹きかけ「ドレミの唄」の楽譜を見ながら演奏練習は実を結び満足のいく演奏ができるようになりました。今は次の課題「カエルの唄」に挑戦予定です。あと、体操教室では運動会を見据えた、みんなの大好きなかけここの練習をしました。勝敗があるので喜怒哀楽を味わったり、お互いに励まし合うなど共同体としてのまとまりが見えたのも素晴らしいなあ〜と感心させられました。他にも、縄跳びでは通常の前跳びから後ろ跳びやあや跳びなどの難易度を上げて楽しむ姿がみられるのも年長者の余裕が感じられます。これからの季節は外遊びを大いに取り入れて元気な身体づくりに取り組んでいきたいと考えています。

給食室だより

～「収穫の秋」は旬な食材がたくさん!～

今夏は記録的な暑さから「実りの秋」の行方が少々、心配ですが…。昨今は栽培技術の進化で季節に関係なく野菜が食べられるようになったものの、「それぞれ適した土地や気候などの環境の下に育てられた「旬」の野菜や果物は季節外れのものとは比べて味や風味も格段に違い、そのままでも美味しく食べられる」といったことから重宝がられます。また昔から「季節に伴い、体も変化すると考えられ、自然と体を調和させるために、その土地で採れる「旬」の食材を上手に取り入れるのが良く、それらは、手頃な価格で栄養価も旨みも高く、心身の健康を保つためにも重要」との位置づけとなっています。それらの特徴は(1)味が濃く美味しい、(2)栄養価が高い、(3)鮮度がよくて経済的である、そして(4)季節にあった身体的機能を補強する(免疫力アップ)などが挙げられます。これからの季節の代表的な野菜には食物繊維やカリウムのさつまいもがダイエット効果、βカロチンやビタミンCのかぼちゃが免疫力アップ、植物繊維やポリフェノールのごぼうが疲労回復、ビタミンB1や鉄分のほうれん草が貧血予防などの効果がそれぞれあります。他にも腸内環境を整えてくれるきのこ類など実りの秋の野菜で元気に過ごしていくようにしましょう。